

平成 28 年度
独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

熊本地震被災発達障害者への支援事業
報告書

特定非営利活動法人 凸凹ライフデザイン

目次

- 1. はじめに… p 5
- 2. 事業背景・事業目的… p 6
- 3. 事業内容・事業実績… p 8
 - 1) 常設の一時休息の場の提供… p 8
 - 2) アウトリーチのためのコンテンツ展開… p 11
 - 3) 被災地発達障害者からの情報発信のた
めの冊子作製と配布 … p 13
 - 4) メールによる相談… p 16
 - 5) 連絡会議等の開催… p 16
- 4. 事業成果… p 17
- 5. 新たなニーズ・課題… p 22
- 6. まとめ… p 23
- 7. 参考資料… p 24
 - 1) アンケート… p 25
 - 2) 研修・講演・相談会 写真・報告… p 31
 - 3) イベント、普段の様子 写真… p 37
 - 4) フライヤー 画像… p 40
 - 5) 作成物（冊子）写真… p 43
 - 6) インターネットでの報告ページ 画像… p 44

* 成果物（作成物）

- 1) 冊子「MIZICA 熊本地震と発達障害」
- 2) 冊子「つぶやく 発達障害当事者の葉」

○本報告書の作成にあたっては、連携団体

熊本県発達障害当事者会 Little bit

宮崎青年・成人発達障害当事者会 ShiKiBu

に多くのご協力をいただきました。

1. はじめに

2016年4月14日、16日に起きた熊本地震の影響はまだ大きく、これから表面化してくる課題もあると思われる。

熊本地震がクローズアップされる機会は少なくなり、取り上げられることがあっても復興に向けて頑張っているというポジティブな面を強調した話題が多くなっているように感じられる。

時間が経つにつれて、地震のことを考える時間が少なくなるのはある側面では当然とされることや、思い出したくない、暗い気持ちになりたくないという人の気持ちも尊重されるべきだと思う。

しかし、その一方で、地震は終わったことだというように、起こる課題と地震との関係を認められない雰囲気や、ネガティブな話題を出してしまうと白い目で見られるのではないかと不安になるような空気感、みんな「頑張っている」のに自分は頑張ることができないと自責にかられる人が出てきてしまう状況は避ける必要があるのではないか。

概して明るく大きな声は多くの人に良いことに聞こえ、良いことを良いこと以外として考える必要のない場合には確かに肯定されるべきことだ。そして、大きな声を持つ人々は決して他の声を消そうという意識はなく、本当に良いことをしているのだと思う。また、小さな声の人の一部にとっても良いこととして当てはまる場合も多いと思う。

ただ、私ども凸凹ライフデザインは発達障害を持つ人々と共に熊本で生きる団体として、マイノリティの声を大切にする団体として、大きな声にかき消されてしまうことが多い私たちの声をひとつひとつ拾っていききたい。それはばらばらで時に対立することもあり、声にもならないことが多く、集めてみても多くの人にとっては無意味だと感じられるかもしれない。

それでも、多数決を民主的だと無自覚に信じやすい要素の多い社会の中で、私どもはできることを続けるべきだと考えている。

熊本地震後に開始した本『熊本地震被災発達障害者への支援』事業でもその意識を新たにしたところである。

本事業にご助成くださった独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業に深く感謝すると共に、本事業の成果と今後の課題について明らかにし、私どもの理念に一部でもご賛同いただける方と将来協働させていただくきっかけとなることを願い、本報告書を開版する。

理事長 相良真央

2. 事業背景・事業目的

当団体はこれまで、青年期から成人期を中心とした発達障害者らと協働した活動を行ってきた。定例会の運営、開催や研修・講演会活動を共に行う中から、当事者等との信頼関係を築く中で、

- ・自身の状態や負荷の自覚の困難
- ・自身の困難の表明の難しさ
- ・「普通」に合わせようとするために生じるひずみによるアイデンティティの喪失
- ・感覚（視覚、聴覚、触覚など）の過敏性による日常的なストレスの大きさ
- ・周囲の障害に対する理解の不足からの言動によるダメージ
- ・主体的な思考や言動を取り戻す場の少なさ

などの課題が当事者の生きづらさに大きく影響していることを認識し、その改善を当事者等と共に試行錯誤してきた。

当事者等との話し合いを4年以上重ねてきた中から、信頼関係が強まり、またつながりが広がっており、少しずつ当事者等が自分の能力や特

技を周囲へも発揮できる環境ができています。

今回の熊本地震の影響として、発達障害の特性から、当事者らに以下のような課題が表面化している。

- ・実際には被災によるストレスが大きくかかっているにも関わらず、うまく自覚することができない。
- ・普段と全く違うことを、違う手順でしなければならないため、考える範囲や選択肢が飛躍的に広がる。(選択肢が全て並列になってしまう特性の方も多い。脳の容量オーバーを迎え疲弊する)
- ・経済的なダメージ(仕事が長期間休みになり収入が減少している、家や物の破損による出費、被災による精神的不安定からの受診や服薬の回数が増えることによる出費など)
- ・「完全に壊れたら修理に出せるけど、心が壊れているかがわからない(当事者の言葉)」…自分はどの程度疲れているのか、本当に疲れているのか、他の人の方が疲れているようだから自分は疲れているとは言えないのではないか、など周囲との比較で考え続けてしまう。
- ・問題がないように見え、他者から尋ねられても大丈夫と答える当事者が数か月後に突然倒れる例はこれまでもみられた。震災後のストレスが今後数か月から数年後に急激に現われることも考えられる。

特に困難の自覚や表明が難しい当事者に対して、背景に大きな課題が隠れていることも少なくないため、積極的なアプローチを行う必要があると考えた。潜在的なニーズを引き出し、本人を主体とした改善・解決を共に模索し続けられる環境の整備を早急に行うべきであると判断し、本事業を開始することとなった。

3. 事業内容・事業実績

事業1) 常設の一時休息の場の提供

＊発達障害者等が地震後の常時と違う関わりによる精神的負担から一時的に離れ、自分のペースを回復し、日常生活の力を取り戻す場となることを目的とした。

	事業開始前の予定 ・見込等	実績・結果等
内容	物件を借り、発達障害当事者が安心できる場として整備し、休息の場を提供する。	・熊本市中央区の物件を借り、発達障害当事者が安心できるよう整備し、休息の場を提供した。 ・地震の直後で不動産が不足しており、物件契約までに時間と労力、交渉を要したが、理解ある不動産会社と契約することができた。 ・当事者スタッフの尽力により、ルールの明示やデザイン性等、安心プラスアルファの工夫のある場づくりができた（資料参照）。 ・地震後で近隣の工事が予測以上に行われ、利用者からの苦情は特になかったが、周囲の音のやや気になる時期が1ヶ月弱程度あった。 ＊場の提供（事業1）をメインに、コンテンツ（事業2）、メール相談（事業4）の案内を掲載したフライヤーを配布した（資料参照）。

		・ 配布期間 平成 28 年 8 月 26 日～9 月 28 日 ・ 配布先 <table><tr><th>配布先</th><th>機関・組織数</th><th>配布部数</th></tr><tr><td>国・県・市の機関</td><td>8</td><td>100</td></tr><tr><td>医療機関</td><td>5</td><td>41+データ</td></tr><tr><td>障害福祉事業所</td><td>12</td><td>120</td></tr><tr><td>企業</td><td>1</td><td>10</td></tr><tr><td>団体</td><td>1</td><td>10</td></tr><tr><td>(合計)</td><td>27</td><td>281</td></tr></table>	配布先	機関・組織数	配布部数	国・県・市の機関	8	100	医療機関	5	41+データ	障害福祉事業所	12	120	企業	1	10	団体	1	10	(合計)	27	281																			
配布先	機関・組織数	配布部数																																								
国・県・市の機関	8	100																																								
医療機関	5	41+データ																																								
障害福祉事業所	12	120																																								
企業	1	10																																								
団体	1	10																																								
(合計)	27	281																																								
実施期間・回数	4 日間／週 月 1 回以上は土日祝日を含む 13 時～20 時 28 年度：8 月～3 月	・ 平成 28 年 8 月～平成 29 年 3 月 ・ 4 日間／週プラス月平均 1 日開所した。 ・ 土日祝日については予定以上の開所ができた。 <開所回数> <table><tr><th>月</th><th>土</th><th>日</th><th>祝</th><th>他</th></tr><tr><td>8</td><td>3</td><td></td><td>1</td><td></td></tr><tr><td>9</td><td>3</td><td>1</td><td>1</td><td></td></tr><tr><td>10</td><td>3</td><td></td><td>1</td><td></td></tr><tr><td>11</td><td>3</td><td>1</td><td>1</td><td>+ 祝日イベント 1 回</td></tr><tr><td>12</td><td>2</td><td>1</td><td></td><td>+ 日曜イベント 1 回 + 土曜イベント 1 回</td></tr><tr><td>1</td><td>4</td><td></td><td></td><td>3 日より開所・土曜イベントを含む</td></tr><tr><td>2</td><td>3</td><td></td><td>1</td><td></td></tr></table>	月	土	日	祝	他	8	3		1		9	3	1	1		10	3		1		11	3	1	1	+ 祝日イベント 1 回	12	2	1		+ 日曜イベント 1 回 + 土曜イベント 1 回	1	4			3 日より開所・土曜イベントを含む	2	3		1	
月	土	日	祝	他																																						
8	3		1																																							
9	3	1	1																																							
10	3		1																																							
11	3	1	1	+ 祝日イベント 1 回																																						
12	2	1		+ 日曜イベント 1 回 + 土曜イベント 1 回																																						
1	4			3 日より開所・土曜イベントを含む																																						
2	3		1																																							

		<table><tr><td>3</td><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ・ 13 時～19 時を基本開所時間に設定して広報し、実質的には基本 20 時まで開所した。	3	3			
3	3						
場所	熊本市中央区壺川 1 丁目	熊本市中央区坪井 1 丁目・熊本市中央区坪井 6 丁目 ・ 5 月時点で予定していた事務所の環境に事業実施に関しての難点が見つかったため、福祉医療機構に事情を説明・了承していただき実施物件を変更。 狭くなったこともあり目的を絞り 2 か所に分けて実施した。(2 か所の場所をそれぞれ「共助センターほしくま」「共助センターくろくま」とした。)					
対象者・数	被災後の生活に疲れや困難のある発達障害者等延べ 50 名(1 回あたり 1～5 名目標)	目標よりも多くの方にお越し頂くことができた。 1 回あたりの来所者数は 1 名～5 名程度で、予定に近い環境で事業を進めることができた。その他、ミーティング時等は 10 名前後の方が来られることもあった。 発達障害当事者の他、ご家族、学生、支援職の方、教育関係の方、行政機関の方等にもお越しただけた(アンケート参照)。					



			月	延利用 人数	(内当事者)
			8	3	3
			9	43	29
			10	56	49
			11	55	47
			12	40	32
			1	42	41
			2	41	41
			3*	14	14
			計	294	256

*3月は7日までの合計（参考値）

事業2) アウトリーチのためのコンテンツ展開

*発達障害当事者のサポートニーズを把握するためのアウトリーチ活動としてイベント等を行い、同時に本事業全体の案内を行うことで、潜在するニーズの掘り起こしをすることを目的とした。

	事業開始前の予定・見込等	実績・結果等
内 容	アウトリーチのための・ミニ講座の開催 ・専門家による相談会の開催	・発達障害当事者によるミニ講座の開催 (A) ・専門家による相談・講演・研修会の開催 (B)
実	年間3回	

施 期 間 ・ 回 数	①	2016. 8.21	糸紡ぎワークショップ	A
	②	9.23	夜の縁側カフェ 1	A
	③	10.7	ほんわかカフェ	A
	④	10.14	夜の縁側カフェ 2	A
	⑤	10.21	夜の縁側カフェ 3	A
	⑥	11.3	ビブリオバトル 1	A
	⑦	11.26	災害障害者手帳を作 ろうの会（講演・研 修会）	B
	⑧	12.4	もしもあなたやあな たの子どもが発達障 害と診断されたら （講演会）	B
	⑨	12.17	くまもとワーク・ラ イフサポートセンタ ー縁の原田さんに相 談する会（相談会）	B
	⑩	12.17	ビブリオバトル 2	A
	⑪	2017. 1.14	ぶきっちょさんでも 大丈夫！プラ板でア クセサリーを作ろう	A
	⑫	2.18	第 1 回テレビ鑑賞会	A
	⑬	3.4	第 2 回テレビ鑑賞会	A
専門家による講演、研修、相談会（計 3 回）のほか、当事者企画のイベントを 10 回開催し、参加者に楽しんでいただくこ				

		とができた。																																
場 所	柱立て1と同じ場所で行う	柱立て1と同じ場所（共助センターほしくま・共助センターくろくま）																																
対 象 者 ・ 数	発達障害に関する事業であることと目的を示したうえで広く参加者を募集する。1回あたり10名程度	<table><tr><td></td><td>参加者数</td><td></td><td>参加者数</td></tr><tr><td>①</td><td>4</td><td>②</td><td>2</td></tr><tr><td>③</td><td>13</td><td>④</td><td>2</td></tr><tr><td>⑤</td><td>3</td><td>⑥</td><td>9</td></tr><tr><td>⑦</td><td>9</td><td>⑧</td><td>14</td></tr><tr><td>⑨</td><td>11</td><td>⑩</td><td>11</td></tr><tr><td>⑪</td><td>4</td><td>⑫</td><td>4</td></tr><tr><td>⑬</td><td>9</td><td>計</td><td>(95)</td></tr></table> 1回あたりの人数は「居場所としてのアットホームな環境」を重視したこともあり、目標数前後で推移した（は（B）専門家による講座等）。その他発達障害者が企画した講座を開催することができ、一定人数の参加を得られた。		参加者数		参加者数	①	4	②	2	③	13	④	2	⑤	3	⑥	9	⑦	9	⑧	14	⑨	11	⑩	11	⑪	4	⑫	4	⑬	9	計	(95)
	参加者数		参加者数																															
①	4	②	2																															
③	13	④	2																															
⑤	3	⑥	9																															
⑦	9	⑧	14																															
⑨	11	⑩	11																															
⑪	4	⑫	4																															
⑬	9	計	(95)																															

事業3）被災地発達障害者からの情報発信のための冊子作製と配布

＊熊本地震で被災した発達障害者の具体的な困りごとや支援ニーズ、被災地での生活体験等を記録し発信するための冊子を作成・配布することで、目的を持った行動と成果による被災当事者のエンパワメントと、社会に当事者の声を伝えることによる今後の備えや日常のつながりを得ることを目的とした。

	事業開始前の予定・見込等	実績・結果等					
内容	被災した発達障害当事者また家族からの聞き取りを行う、当事者から文章や絵などの提供を求める等の方法で声を集め、冊子にし、関係機関等に配布または郵送する。	被災した発達障害当事者や当事者に日頃から関わっている方（支援職の方等）の他、報道関係者の協力等も得ることができた。文章の他、写真やイラストの提供もあった。配布先として、予定の関係機関等の他、事業 1（居場所提供）に関心をお寄せ下さった教育関係者（大学）、被災地困窮者支援関係団体や NHK 厚生文化事業団の方等にも配布・郵送することができた。					
実施期間・回数	①平成 28 年 7 月～12 月 聞き取り等 10 回程度 ②平成 29 年 1 月～3 月 編集会議 2 回程度	聞き取り：平成 28 年 7 月～10 月／4 回 アンケート：平成 28 年 9 月／2 回 編集会議：平成 28 年 7 月～12 月／5 回					
場所	事業 1 と同じ場所 （適宜避難先等）	事業 1 と同じ場所 （適宜避難先、会議室等）					
対象者・数	①作成に発達障害者、被災地域の方々延べ 30 名の協力を得る ②関係・協力機関（5 カ所程度）に協力を依頼する（対象者として 15 名程度）	（協力者延べ人数） （人） <table><tr><td>被災した発達障害当事者からの聞き取り</td><td>23</td></tr><tr><td>被災した支援者等を対象にしたアンケート、聞き取り</td><td>27</td></tr></table>		被災した発達障害当事者からの聞き取り	23	被災した支援者等を対象にしたアンケート、聞き取り	27
被災した発達障害当事者からの聞き取り	23						
被災した支援者等を対象にしたアンケート、聞き取り	27						

③事業 1 の場に来られた方 5 名程度に協力を依頼する	発達障害当事者からの聞き取り	28
	当事者からの文章提供	7
	当事者からの作品提供	3
	①延べ 50 名の協力を得られた。 ②関係・協力機関／団体 5 カ所の協力を得られた。 ③延べ 23 名の協力を得られた。	

○冊子の配布先について（順不同）

配布先	機関・団体・個人数	備考
連携団体	2	
障害者自立支援協議会部会	3	熊本市、宮崎市
県・市等の機関	7	医療関係機関、発達障害者支援センター等
教育機関等	4	大学
法人・企業等	10	障害福祉事業所、NPO 法人等
社会活動団体等	5	
報道機関等	2	NHK の方等
個人	20	弁護士、手をつなぐ育成会の方等

* 制作物（冊子）については資料参照

事業 4) メールによる相談

＊事業 1（常設の場合）にアクセスすることが難しい被災発達障害当事者が相談する場としてメールでの相談を行い、問題の解決に向かうことと必要に応じ面談や適切な機関の紹介等を行うことを目的とした。

	事業開始前の予定・見込等	実績・結果等
内容	メールによる被災発達障害者の相談を行う。	被災発達障害者、被災発達障害者の家族のメール相談に応じた。
期間・回数	・平成 28 年 7 月～ ・メールの受付は随時 ・返信は 4 日／月、1 日当たり 4 時間	・平成 28 年 7 月～（継続中） ・返信は 4 日／月、1 日当たり 4 時間の体制で行った。 ・必要に応じ通話を行った。
場所	事業 1 と同じ場所	事業 1 と同じ場所
対象者・数	被災地の発達障害当事者、発達障害者の家族・関係者等延べ 30 名	・発達障害当事者 13 名 ・発達障害当事者の家族 5 名 ・発達障害当事者の関係者 4 名（延べ数） ＊合計 22 名

事業 5) 連絡会議の開催等

＊連携団体間また各責任者間で事業の進捗状況や課題に関する情報の共有と目標の設定・確認を行うことを目的とした。

	事業開始前の予定・見込等	実績・結果等																			
内容	連携団体と事業の責任者を含む連絡・調整のための会議	連携団体（２団体）と事業責任者（当団体）間の連絡・調整会議																			
期間・回数	平成 28 年 7 月～ 6 回／年	<table><tr><td>回数</td><td>開催日</td></tr><tr><td>第 1 回</td><td>28 年 8 月 21 日</td></tr><tr><td>第 2 回</td><td>28 年 9 月 27 日</td></tr><tr><td>第 3 回</td><td>28 年 10 月 21 日</td></tr><tr><td>第 4 回</td><td>28 年 11 月 20 日</td></tr><tr><td>第 5 回</td><td>29 年 2 月 1 日</td></tr><tr><td>第 6 回</td><td>29 年 2 月 16 日</td></tr><tr><td>第 7 回</td><td>29 年 3 月 10 日</td></tr><tr><td>計</td><td>7 回</td></tr></table>		回数	開催日	第 1 回	28 年 8 月 21 日	第 2 回	28 年 9 月 27 日	第 3 回	28 年 10 月 21 日	第 4 回	28 年 11 月 20 日	第 5 回	29 年 2 月 1 日	第 6 回	29 年 2 月 16 日	第 7 回	29 年 3 月 10 日	計	7 回
回数	開催日																				
第 1 回	28 年 8 月 21 日																				
第 2 回	28 年 9 月 27 日																				
第 3 回	28 年 10 月 21 日																				
第 4 回	28 年 11 月 20 日																				
第 5 回	29 年 2 月 1 日																				
第 6 回	29 年 2 月 16 日																				
第 7 回	29 年 3 月 10 日																				
計	7 回																				
場所	連携団体の地域（必要に応じ熊本でも開催）	連携団体の地域（宮崎県宮崎市） ・ 宮崎市民活動センター ・ 宮崎市総合保健福祉センター																			
対象者・数	連携団体より 1 名、当団体より 1 名、現場責任者 1 名以上 計 3 名以上	連携団体より 1 名、当団体より 1 名、現場責任者 1 名 計 3 名																			

4. 事業成果

①事業 1) 常設の一時休息の場の提供に関して

○総合的に、「常設」の「場」へのニーズと関心の高さが感じられた。

- ・当初の目標と照合しても、多くの方が利用してくださった。
- ・アンケートの内容からも安心の場への需要が裏付けられた（参考資料）。
- ・県の機関、教育関係者等予測外の方からのお問い合わせ、ご見学をいただいた。
- ・利用者の中には自ら場を使った企画をしてみたいという方もいらしかった。
- ・長期間利用される方も複数名いた。

⇒ 今後の継続的な運営と展開が望ましい。

○当事者のデザインや工夫が生きた場となった。

- ・テーマを設け、室内に提供された装飾品を配置したり、マスキングテープなどで装飾をしたりした。当事者の感性でデザインされた空間となった。
- ・場のルールを室内に明示し、利用者に口頭だけでなく視覚でも守ってほしいことを伝える工夫をした。
- ・室内に関しての感想を口にされる方が多かった。

⇒ 信頼して当事者に任せると独創性のある空間がつくられ、多くの方に発達障害当事者の感性が認められた。

△場所が分からないとのお問い合わせが数件あった。

- ・スタッフの安全面を考えメールのみの受付で対応したため、とっさの対応の際お待たせすることがあった。

⇒ 安価なプランの専用の電話を用意したい。



②事業 2) アウトリーチのためのコンテンツ展開に関して

○専門家を招いての講演・研修・相談会に高い関心が寄せられた。

- ・「もしもあなたやあなたの子どもが発達障害と診断されたら」（講演会）には、ポスター配布時点で反響が大きく、「お子様連れ OK」にも反応があり、実際に子どもも3人参加された。実体験を踏まえた講演に質問も多くあがった。
- ・アート活動をされている当事者の講演では内省から来る表現のひとつひとつに感心の声があがった。
- ・相談会では、専門のハードルを感じさせない雰囲気には話が深まり、時間が足りないほどになった。

⇒ どのような立場の方にお話しいただく際も、「同じ目線」を大切にする観点をご理解頂ける方に今後もお願いしていきたい。

○当事者による企画が多く開催され、新たな発見があった。

- ・当事者の方々が精力的に企画案を出され、それぞれに特色と魅力のあるイベントになった。
- ・「ビブリオバトル」は司書の方が企画し、人気もあったため第2回も開催された。第2回では1回目より多くの「バトラー」参加があった。
- ・ゆったりとした時間を過ごす「夜の縁側カフェ」にも集まる方が多く、人と過ごすことを大切に感じる方が集まる場所が意外と普段の生活の中には不足していることを痛感した。

⇒ 当事者が主体となった企画では運営側、参加側ともに良い刺激があった。今後の継続が見込める結果になった。

△環境の管理が難しかった。

- ・通気性は良いが築年数が深く断熱効果が弱い物件のため、暖房器具が追いつかず参加者がやや寒そうな場面があった。

⇒ 子どもも来やすい環境作りと衛生管理面からも、暑さ寒さに備えた準備を充分に行いたい。



③事業 3) 被災地発達障害者からの情報発信のための冊子作成と配布に関して

○形になることでの効果が感じられた。

- ・具体的に「冊子を作るために」と協力を依頼すると、理解を示してくださる方が多かった。目的がはっきりしていることで得られる反応が感じられた。
- ・冊子を受け取った方の数名は、ご自身のことと照らし合わせて読んだ感想を伝えてくださった。「自分事としてとらえる」という理念が伝わりやすい一つの方法だと分かった。
- ・遠方の方にも冊子をお送りすることで成果を伝えることができ、つながりをつくる・強めるためにも有効なものとなった。

⇒ 今後も法人のプロジェクトとして冊子作成を継続したい。

○当事者の考えが生きたものとなった。

- ・まとめることで、ひとりひとりの考えが一か所に整理されて見えるものになった。
- ・当事者が編集を行い、デザイン的にも鑑賞できる作品になった。

⇒ 今後はデザインの応用の効くソフトウェアの利用を検討したい。

△当事者の言葉をそのまま掲載する方針をどこまで適用するかが難しい。

- ・日頃から当事者と接しているような人であれば容易に理解できる言葉遣いであっても、読む人によっては誤解を招きかねない部分もあり、多くの人を対象に配布する冊子にどこまで素直な言葉を伝えるか、考えさせられることが多かった。

⇒ 今後は方針や目的をより明確にするとともに、言葉の解釈の例示などまで編集者内で検討していきたい。



④事業 4) メールによる相談に関して

○夜の時間帯のご相談を受けることが可能になった。

- ・当事者の保護者の方から夜にメールをいただき、翌日等に返信することができた。夜はスタッフが電話に出られないことが多かったので入口として良かった。

⇒ 今後も事業の一部として継続していきたい。

○当事者以外の方からのご相談があった。

- ・メールは問合せ等の窓口として一般的なものと捉えられている側面があるので、比較的ハードルが低いと感じられる方もいらっしゃるのではないかとわかった。

△問い合わせ件数が目標値を下回った。

- ・スタッフ間で検討し、「書く」ことにハードルがある方、メールが一般的にどのように使われるツールか経験が浅い等で難しく感じられている方など、相談事があったもどう送ったら良いかというところで止まってしまいやすい方もいるのではないかという理由が考えられた。

⇒ 相談事を記入するだけのメールフォームを作成する、例を表示する等、今後意見を集約した後に形式を整えていきたい。

⇒ 電話を併用できるようにすれば、メールが難しい方を電話相談につなげられる可能性がある。



⑤事業 5) 連絡会議の開催等に関して

○連携団体同士の協力関係が深まった。現場以外からの親身な意見によって、事業の遂行がスムーズになった。

- ・細かく相談することで、協力できる部分が次々に見つかった。
- ・違う地域に協力者がいる安心感が大きかった。
- ・インターネットでの広報の多くを任せることができた。

- ・冊子についても多くの助言を得られた。
- ⇒ 対面で話すことでの情報共有の大切さが感じられた。今後も意識的に密な連携をとっていきたい。

5. 新たなニーズ・課題

新たなニーズ
・ 常設の安心の場の長期的な開設 ・ 当事者自身の表現が否定されず、安心して発揮できる場 ・ 当事者が企画、運営に挑戦できる仕組み ・ 「失敗のリカバリー」の仕組みと「挫折の予防」の仕組み ・ 初めてアクセスされる方への入り口の枠組みの工夫

新たな課題
・ アクセスされる方に対応する電話窓口 ・ 当事者のストレスの自覚、ヘルプの出し方（表現）の個々の違いとその周知 ・ 当事者にとって生活上マニュアル化が必要な部分の調査 ・ 当事者を雇用する上で必要な枠組みの更なる整備

○心身の休息が必要な方が多い。特に休養を長期に必要とされる方に、複数の居場所があることが重要と言われる。一つの選択肢としての発達障害に特化した常設の場として、継続しながら改善、発展させたい。

○発達障害当事者が自分なりの表現を安心して発揮する機会が乏しい中、

事業の中で企画から実施まで主体的に行ったり、デザインや文章を工夫されたりした方が多かった。このような場・機会が増え、継続されることで、自分の表現に対する自信を取り戻すことができると思われる。

○発達障害者の「感覚」は一人一人大きく異なるが、実際にどう違うのか、どのような現れ方をするかは一人の当事者と長期間関わらないと分からないことが多い。当事者と共に引き続き事例を蓄積すると同時に、当事者の生の感覚を伝え、啓発に努めたい。

○当事者スタッフがいることで安心して来所できた方、また当事者がスタッフとして働いていることに注目してくださった方が多くいらっしゃった。ピアスタッフの推進、充実の必要性を感じるとともに、スタッフ自身が安心して仕事ができる環境を話し合いながら整えていくことが、対象者の利益に大きく関与することを実感した。細かいことでも手順を決めた方が良いところ、反対に制限にとらわれず自由な発想ができた方がよいところなどを精査し、必要なルールを作っていくこととフィードバックをより丁寧に行っていきたい。

6. まとめ

◆「居場所」に対するニーズの高さを知ることができる結果となった。また、午後～夕方の時間帯のニーズが高いことが分かった。

その背景として、インターネット環境の充実等により多様な生き方に触れる機会が増える一方で、既定の生き方とされるものが明確な言葉の外に存在し、既定以外を異端視する視線は根強いこと、それらの視線に敏感な人にとって特に他者が存在する場で自分が居て良いと感じられる場が少ないこと、等が居場所の利用者の言葉等から明らかとなった。

◆当事者と同じ目線に立つことは意識的にできるものでもなく、その人その人の経験に基づく哲学と当事者と接する経験が必要だと考えられるが、相談会や講演会に講師として呼び出した方々はどなたもその姿勢が一貫されていると感じられ、参加者にも好評を得られた。また、当事者の話をもっと聞きたいという声もあった。当事者による企画・運営は本人、参加者共に効果と手ごたえを感じられた。今後も取り組みを継続したい。

◆冊子の作成では明確に当事者の力が発揮された。原稿、アート作品、編集等それぞれの得意分野を組み合わせることができた。一つの目的をもって行動することで理解納得が進むと、具体的な行動と能力を生かすことにつながりやすいのではないかと考える。冊子作成の取り組みは、当法人の特色としても今後続けるべき部分だと思う。

◆メール相談は比較的件数が少なかった。相談内容は充実したが、顔を見て話すことが一番、そうでなくても電話で話したいという方が多かった。今後は電話窓口も設けられるよう計画したい。

◆宮崎の連携団体と密に協力をすることで、連携団体でこれまで蓄積されてきた経験や信頼を本事業に生かすことが可能になったと感じている。毎日の広報作業や記録の仕方等、連携団体の力が大きく、学ぶことも多かった。今後も関係を発展させていきたい。

7. 参考資料

- 1) アンケート
- 2) 研修・講演・相談会 写真・報告
- 3) イベント、普段の様子 写真
- 4) フライヤー 画像
- 5) 作成物（冊子）写真
- 6) インターネットでの報告ページ 画像

アンケート

①常設の一時休息の場の提供

Q センター全般について、ご満足いただけましたか

(4.とても満足 3.満足 2.やや不満足 1.不満足)

平均 3.75 (母数 455)

(参考：月毎の平均値)

月	8	9	10	11	12	1	2	3*
母数	3	41	56	51	40	41	43	14
平均	4	3.7	3.6	3.6	3.6	3.9	3.8	3.8

*3月は7日までのデータ(参考値)

Q 自分の身体の疲れを確認したり、軽減したりできましたか

(4.できた 3.まあまあできた 2.ややできなかった 1.できなかった)

平均 3.44 (母数 189)

Q 自分の心の(精神的な)疲れを自覚したり、軽減したりできましたか

(4.できた 3.まあまあできた 2.ややできなかった 1.できなかった)

平均 3.5 (母数 189)

Q 自分のペースを確認したり、取り戻したりする機会になったと思われ
ますか

(4.そう思う 3.まあまあ思う 2.あまり思わない 1.思わない)

平均 3.64 (母数 189)

ご感想より

- ・パソコン作業をもちこみました。はかどったのでよかったです。(30代/女性/当事者)
- ・コーヒーがおいしかった。あつかった。景観がいい。ふぜいがある。(20代/男性/当事者)
- ・初めて利用しましたが、トイレも洋式で、本当に使いやすかったです。また、畳もあって足をのばしやすかったかな…と思います。(30代/女性/当事者)
- ・皆でリラックスして話し合うことができました！(20代/女性/当事者)
- ・もう、ここに住みたいです。(10代/女性/当事者)
- ・話をした内容が、今の自分のニーズによく合っていたため、参加してよかったです。(40代/女性/当事者)
- ・こういう雰囲気でするのも良いと思った。こういう場所だと子ども連れて来やすい。子どもを連れて来れる場所みたいな所がほしいと思った。地域の子育て支援の場とか行きづらいというのを感じている。(30代/女性/当事者)
- ・近くに公園があるので散歩に良いなと思いました。(20代/男性/当事者)
- ・前来たときより、ここにいる自分になじんでいるような、リラックスしているような気がした。(20代/女性/その他)
- ・ていねいに説明していただきありがとうございました。こういう場所が少しでも増えるといいですね。頑張ってください。(60代/女性/支援者)
- ・初めて来ましたが、適度の広さの空間で大変居心地が良かったです。色々な雑談ができて時間が過ぎるのが早かったです。美味しいコーヒーもいただきました！(60代/男性/福祉関係者)

②アウトリーチのためのコンテンツ展開

Q 企画全般について、ご満足いただけましたか

(4: とても満足、3: やや満足、2: やや不満足、1: 不満足)

平均 3.78 (母数 23)

Q 発達障害の特性のある方が①自分が困っていることを自覚すること、②その困り感を表明することの難しさや意味について考えることができましたか

(4: できた、3: まあまあできた、2: ややできなかった、1: できなかった)

平均 3.87 (母数 16)

Q 自分のことを知って人に伝えることに関して、今回の機会は役に立つと思われましたか

(4: 役に立つ、3: まあまあ役に立つ、2: あまり役に立たない、1: 役に立たない)

平均 3.94 (母数 19)

ご 感 想 よ り

*研修会「災害障害者手帳を作ろうの会」

- ・聞いて考えることができる講話と、具体的な作業で頭が整理された気がします。(30代/女性/当事者)
- ・災害手帳をとっておこうと思いまいした。(30代/男性/当事者)
- ・自分の障害特性を表現するのが苦手なので、災害手帳だけではなく、他にも自分を振り返る機会があっても良いのかなあ~と思った。普段使える手帳を作るのもありかもしれない。(30代/女性/当事者)
- ・今回、このようなイベントに参加することができたこと、皆さんに感謝します。ありがとうございました。(60代/男性/その他)
- ・今回作った災害手帳、今後のことも考え、是非取っておきたいと思います。後、きれいなシールを家に貼りたいです。(30代/女性/当事者)



***講演会「もしもあなたやあなたの子どもが発達障害と診断されたら」**

- ・すてきな企画をありがとうございました。講師の方の実際のご体験に基づいたお話がとても今後のことを考えていくのに役立ちました。また、このような機会があったらうれしいです。(30代/女性/当事者)
- ・少人数で、皆さんの意見・気持ちを聞く機会がいただけてすごくいい時間でした。色んな方に参加していただきたいと感じました。(30代/女性/その他)
- ・転勤がある度に状況が変わるのがとても大変だと思った。全国同じような対応がなされてほしい。県・市によっての対応の違いがあることを知った。話が聞けて良かった。(30代/女性/当事者)
- ・県や市など対応が違うことがわかりました。今後の子育てに役立てたいと思います。(40代/男性/家族)
- ・それぞれの立場の人が語り合う場、人とのつながりって大切ですね。講義ではなく「対話」であることの良さを感じました。(30代/女性/当事者)
- ・今日はとても貴重な機会をいただけて本当に良かった。当事者の考えと親の思いのすれ違いや、親が子供への支援をどのようにしていくといいか等色々学ぶことができてよかった。(30代/女性/家族)
- ・小さなお子さん・親御さんが集い、アットホームな雰囲気でした。(20代/女性/当事者)



***相談会「くまもとワーク・ライフサポートセンター縁の原田さんに相談する会」**

- ・みなさん自由でまったり過ごすことができていたと思います。とても和

やかな雰囲気でした。(20代/女性/当事者)

- ・ たのしい時間をありがとうございます。いろんな支援者さんと腹を割って話す機会があるといいです。(20代/女性/当事者)
- ・ 仕事での悩みが多いんだな—と思いました。(20代/女性/その他)
- ・ 相談する内容が思い浮かびませんでした。次このような機会があれば、また参加してみたいと思います。(30代/女性/当事者)
- ・ 自分の困りごとを整理して人に伝える練習になったと思います。(20代/女性/当事者)
- ・ 自分をしてくれる人がいるだけでほっとします。(20代/女性/当事者)
- ・ 悩みは信頼できる相手に思い切って相談できた時点で一人で悩んでいるよりも解決に近づいていると思います。(20代/女性/当事者)
- ・ 人の話を聞いて話して、みんなスッキリしている印象を受けました。(20代/女性/その他)
- ・ これから自分のことをふり返ったり、自分のことを人に伝えたり、反対に伝えられたりするときに意識したら良いことがつかめそうです。(30代/女性/当事者)

③被災地発達障害者からの情報発信のための冊子作製と配布

Q 冊子作成にご協力されたことについて、ご満足いただけましたか

(4: とても満足、3: やや満足、2: やや不満足、1: 不満足)

平均 3.3 (母数 3)

Q 発達障害の特性のある方がおかれている状況を考えることに関して、冊子作成へのご協力は役に立ったと思われますか

(4: 役に立つ、3: まあまあ役に立つ、2: あまり役に立たない、1: 役に立たない)

平均 4 (母数 2)

Q 冊子作成にご協力されて、良かった・力になったと思われませんか

(4: そう思う、3: まあまあそう思う、2: あまり思わない、4: 思わない)

平均 3.5 (母数 2)

Q この冊子は今後配布しますが、地域とのつながりの確認になると思われ
ますか

(4: そう思う、3: まあまあそう思う、2: あまり思わない、4: 思わない)

平均 4 (母数 2)

ご 感 想 よ り

- ・大規模災害時自分がどのようなことで困ったのかを振り返ることができたため。(30代/女性/当事者)
- ・役に立てたらいいなと思う。(20代/女性/当事者)
- ・震災のとき「当事者の参考資料が何もない…」と思ったので、有意義な取り組みだと思います。(20代/女性/当事者)
- ・自分の考えや気持ちを整理する機会になってよかったです。(30代/女性/当事者)
- ・冊子たのしみにしています。(20代/女性/当事者)
- ・色々あったら協力していこうと思いました。(30代/男性/当事者)
- ・冊子が少しでも多くの方に読んでいただけたらと思います。読むのが楽しみです。(20代/女性/当事者)

③メールによる相談

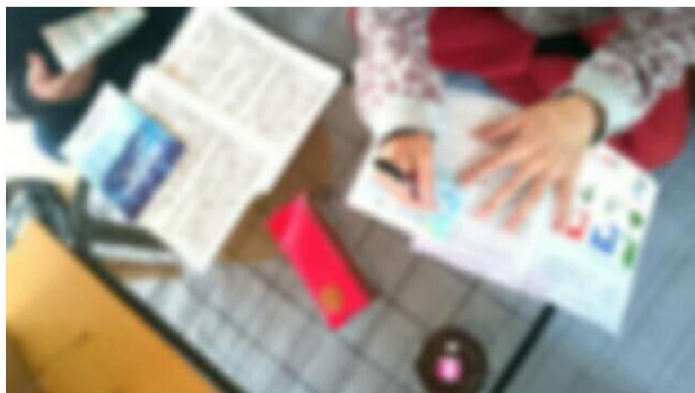
Q メール相談にご満足いただけましたか

(4: とても満足、3: やや満足、2: やや不満足、1: 不満足)

平均 4 (母数 2)

2016 年 11 月 26 日





11月26日(土)13:30～16:30

講師に藍井さんを迎え、「災害障害者手帳をつくろうの会」を開催しました。参加者は8名、発達障害当事者の方も当事者でない方もご参加くださいました。

はじめに、藍井さんより講演をいただき、熊本地震発生時とその後に感じたことをご自身の体験を基にお伝えいただきました。

次に、藍井さんのアイデアを基にしたマニュアルを確認しながら、それぞれ自分の「災害手帳」を作成しました。

複数のデザインの表紙・本文用紙から参加者の方々にはお好きなものを選んでいただきました。

その後、講師の方と一緒に交流会も行い、それぞれの体験や感想を交換し、学び合いができました。

2016.12.04





2016年12月4日(日)10:00～12:00

共助センターほしくまで、「もしもあなたやあなたの子どもが発達障害と診断されたら」のテーマで講演会・座談会を行いました。

14名の方にご参加いただくことができました。

講師に、熊本のご出身で発達障害と診断された4歳の息子さんの子育てをしながら様々なご経験をされていらっしゃる松田佳奈さんをお迎えし、まず、松田さんからご自身の体験を基に考察されたこととお話いただきました。

その後、参加者の方からのご質問などを交えた座談会を行い、様々な方からのご発言をいただくことができました。

そして、「早期に診断された場合」と「成人後に診断を受けた場合」をそれぞれの障害当事者から話題提供をいただき、ご意見やご質問を含めて「当事者の親子関係」について参加者の皆様からもお話しいただき、交流会を行いました。

子どもさんも3名お母様、お父様とお越しいただき、和やかな雰囲気の会になりました。

松田さん、ご参加くださった皆様、寒い日ではありましたが、本当にありがとうございました。

2016年12月17日



2016年12月17日13:30～15:00

共助センターほしくまで、相談会「原田さんに相談にのってもらう会」を行いました。

講師に、熊本市障がい者ワーク・ライフサポートセンター縁の主任を務めていらっしゃる原田文子さんをお招きしました。

参加者は11名、中学生の発達障害当事者の方もいらっしゃいました。

原田さんが差し入れにお菓子をくださり、皆の緊張がほぐれ、たくさんの相談と話で盛り上がりました。

原田さんの自己紹介の時には障害者支援を始められた経緯や日頃の生活のこともお聞きすることができ、支援者と当事者の立場の差が解けたような雰囲気になり、その後の対話につながりました。

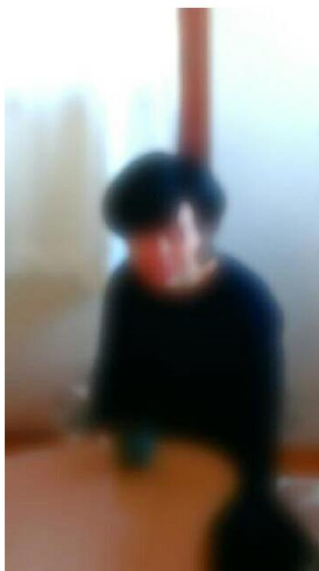
当事者の大変な毎日の生活上の話も、皆で原田さんと一緒に考えると、自然と笑顔が参加者の間からみられてきました。

司会から「熊本地震のあと、生活や仕事に変化があった方もいらっしゃると思います。地震後のこともぜひ話してみませんか」とアナウンスをしたところ、地震で職場の建物が影響を受けたことから自分の処遇にも影響が表れた等、様々な相談が出されました。

原田さんの一言で「ほっとしました」と言われた方もいました。

終始柔らかい雰囲気できれいな場をつくってくださった講師の原田さん、ありがとうございました。

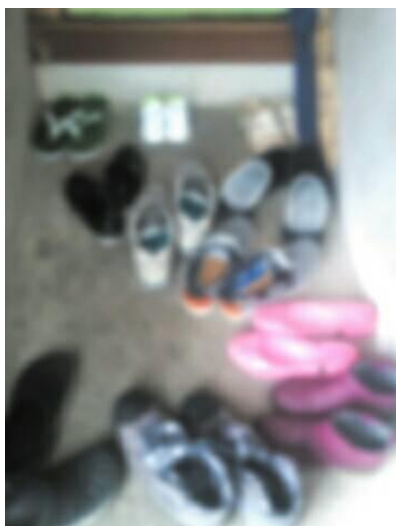
また、初めての場にも関わらず、ご自身の大切なお話を共有してくださった参加者の皆様にも感謝いたします。



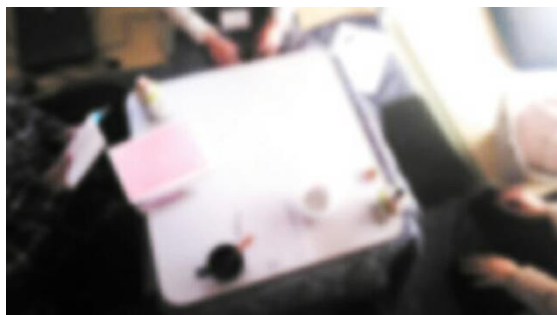
2016年12月17日



くま文庫 寄贈も多くいただきました



糸紡ぎワークショップ



第1回テレビ鑑賞会（鑑賞後の意見交換）





第2回ビブリオバトル



プラ板教室



普段の様子



ほしくまの壁面アート（マスキングテープ）



電車で使われていた座布団



段ボールベッドを再利用した棚
（スタッフ作成）

イベントのフライヤー

ぶきっちゃんでも大丈夫！
みんなでつくろう

ぽう板教室

2017年1月14日(土)
会場：共助センター「ほしくま」
時間：14:00~15:30 定員 10名程度

会場にて受付
もしくはメールにて受付
uneven.npo.soudan@gmail.com

①名前(ハンドルネーム可)
②お立場(当事者等)
③ご連絡可能な連絡先(電話番号等)
※一頁(郵便等)をご記入ください。

会場住所：熊本県熊本市中央区坪井6丁目27-45 パークサイド坪井1号室
BLOG: <http://decobokosoudan.blog.fc2.com>
お問い合わせ: uneven.npo.soudan@gmail.com

興味があるけど不器用だし絵は下手・・・
特に発達障害のある人は思ったように手先が動かなかったり。
でも手作りしてみたい！そんな気持ちを大切にしたいから・・・
みんなで協力して、楽しい時間を過ごしましょう。

対象：器用でも不器用でも
手芸好きな人

熊本電鉄「坪井川公園駅」から徒歩2分、
「黒髪駅」から徒歩5分
電鉄バス「はあちにい駅」から徒歩5分
(北1・2・3系統)

※発達障害当事者専用のイベントである当事者の特性を考慮してすすめてまいります。
お子さんや家族が主催のイベントではありません。

特定非営利活動法人凸凹ライフデザイン

2016.12/4(日)

もしあなたや、 あなたの子どもが

発達障害と診断されたら

場所もしくはメールにて受付
uneven.npo.soudan@gmail.com

①名前(ハンドルネーム可)
②お立場(当事者等)
③ご連絡可能な連絡先(電話番号等)
※一頁(郵便等)をご記入ください。

会場：共助センター「ほしくま」
時間：10:00~12:00
講師・話し手：松田佳奈さん
(現在4歳で当事者であるお子さんの子育てをしている二児の母。ご主人の総会で転勤が多く、各自治体、機関の対応の差を感じられたときのお話を伺います。)

今や身近な
発達障害ですが、実際自分
や家族が診断された場合、熊本
ではどのような手続きが可能な
のか、診断された自分や
家族がどのような選択肢をとれ
るのか皆で探っていく
講演・雑談会です。

10:00~11:00 「自分の子どもが発達障害だったら」
松田さんとスタッフ、発達協働センター「よりみち」相談支援専門員
のトークと座談会

11:00~11:30 「自分が発達障害だったら」
①幼少期に診断された場合(相良真実)
②大人になってから診断された場合(川島小晴)

11:30~12:00 雑談・懇談会 ※時間通りに行かないこともございます。ご了承ください。

住所：熊本県熊本市中央区坪井6丁目27-45 パークサイド坪井1号室
BLOG: <http://decobokosoudan.blog.fc2.com>
お問い合わせ: uneven.npo.soudan@gmail.com

特定非営利活動法人凸凹ライフデザイン

発達・精神障害者による書評合戦

2016文化の日(木) 11/3 14:30~15:30

ビブリア バトル

諸君、
これはただの読書会ではない。
5分という時間でおすめの本をいかに観客にアピ
ルできるかというバトル同士の戦いなのである。

観客様大歓迎。
バトル様熱烈歓迎！
文化の日、熱い戦いを
見逃すな！

観客申し込み
(どなたでも)
uneven.npo.soudan@gmail.comへ
「ビブリアバトル観
戦希望」とタイトル
に名乗って、1本文
にお名前2ご連絡可
能な連絡先を記入し
てメールしてください。

お問い合わせ
uneven.npo.soudan@gmail.com

「ほしくま」住所：熊本県熊本市中央区坪井6丁目27-45 パークサイド坪井1号室
特定非営利活動法人凸凹ライフデザイン

12月17日(土)のイベント

くまもと障がい者ワーク・ライフサポートセンター「縁」の

恋愛以外の
ことなら

ご相談にのります
生活や就労の
ことなど



原田さんに相談にのってもらう会

13:30~14:30

「相談会」「ピアサポート」は
東所もしくはメールにて受付
uneven.npo.soudan@gmail.comに
①どのイベントに参加するか(両方でも可)
②お名前(ハンドルネーム可)
③お立場(当事者等)
④ご連絡可能なご連絡先(電話番号等)
⑤一言(数語等)をご記入ください。

第2回 ほしくま ピアサポート

15:00~16:00

参加するよも
紹介するよも
お話し合い
の場だよ

一人ひとりが
活躍するよも

みんなの力を
集めてね

※本の紹介してみたい人はほしくまに案内、もしくは
上記のアドレスに①②③④⑤と
書いてメールしてください☆

熊本県発達障害当事者会 「Little bit」定例会

16:30~18:30

当事者同士で日々の思いを語り合う
場です。ぜひお話しください☆

✉littlebitkumamoto@gmail.com

メールにて受付
来る人は

会場：共助センターほしくま
熊本県熊本市中央区坪井6丁目
27-45 パークサイド坪井1号室

BLOG
http://decookosoudan.blog.fc2.com

お問い合わせ
uneven.npo.soudan@gmail.com

特定非営利活動法人 凸凹ライフデザイン 障がい者就業支援事業 社会福祉協議会 社会福祉協議会 社会福祉協議会

災害障害者手帳をつくらうの会

発達障害当事者 災害手帳 作成マニュアル

特定非営利活動法人
凸凹ライフデザイン

2016年
11月26日(土)
13:30~16:30

熊本で被災して半年以上が過ぎました。
被災後発達障害者のなかには、今なお悲しみを抱きながら
それを発信できずにいる人たちがいます。
「災害障害者手帳」は一人の被災発達障害者のアイディアをもとに複数の当事者が作りました。
災害時に自分のことを他者に伝える手段としての手帳。
災害が起らないことを願いますが、今後の備えは大変です。
この機会にぜひ自分用の手帳を作りませんか？
障害当事者だけでなく、ご家族・支援者のなどご関心のある方はぜひお話しください！

講師：藍井結 Aoi Ito
NPO法人でのアルバイトをしながら、福祉系大学に通う理髪大学生。
震災での経験をもとに「災害障害者手帳」を生み出した発達障害当事者。
羊の毛から糸を紡ぐ毛糸販売所としても活躍している。

定員：10名
会場：ほしくま熊本県熊本市中央区坪井6丁目27-45パークサイド坪井1号室
申込：uneven.npo.soudan@gmail.com まで
①お名前(ハンドルネーム可)、②連絡先、③参加動機を添えてメールを送信下さい。

特定非営利活動法人凸凹ライフデザイン主催
独立行政法人福祉医療機構 社会福祉協議会 社会福祉協議会 社会福祉協議会

ほしくまにテレビジョンがやってきました記念part2

テレビ鑑賞会

2017年3月4日 Sat

●時間
14:00~16:30

●申込みはいずれかにて受付
①ほしくまに来所
②メールにて受付
uneven.npo.soudan@gmail.comに
①お名前(ハンドルネーム可)
②お立場(当事者等)
③ご連絡可能なご連絡先(電話番号等)
④一言(数語等)をご記入ください。



テレビを見ながら色々語りましょう。

BLOG: <http://decookosoudan.blog.fc2.com>

お問い合わせ: uneven.npo.soudan@gmail.com

特定非営利活動法人凸凹ライフデザイン

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉協議会 社会福祉協議会 社会福祉協議会

場の提供事業 フライヤー

横になったり、そのまま寝たり
居場所、あります。 本を読んだり
楽しくおしゃべりしたり

KUMAMOTO
居場所×発達障害

ほしくま

山井助成

普段の生活からちょっと逃げられるステーション

利用料：無料
(運営のため献金を設置しております。たまたまでも、いくらかでも良いのでお気持ちをお願いいたします。)

どなたでもご利用可能
(障害当事者主体にご理解のある方)
裏面をご覧ください

住所：熊本県熊本市中央区坪井6丁目27-45 パークサイド坪井1号室
●熊本電鉄「坪井川公園駅」から徒歩2分、「黒髪駅」から徒歩5分
●営業時間 13:00～19:00 週4日程度（土日祝を1日以上含む。）
詳しくはブログのカレンダーをチェックしてください。

発達障害等の当事者さんが落ち着ける場所を
提供しています。

なかなか罰子が良くないなあ、自分の気持ちを聞いてくれる人が誰もいないなあ、
ストレスが溜まっていくなあ、という方が少しでもゆっくりできたりお話しでき
たりする場所にしたいと思っています。

また熊本地震から少し時間が経って、意外に自分のストレスは大したことない、
困っていることが何もないなあ、という方。本当にそうでしょうか？発達障害の
方は自分のストレス自体に気づかない方も多いです。知らず知らずのうちに無
理をさせていませんか？ぜひ一度お越しください。

「ほしくま」に来て、ちょっと横になったりお話ししたり、好きなことをしてス
トレスを解消していきましょう。年齢も問いません。学生さんもぜひどうぞ。

発達障害のことを一緒に学べます。

障害当事者でなくても、発達障害に関心のある方（当事者主体にご理解頂ける方）
でしたらどなたでもご利用いただけますのでお気軽にどうぞ。

熊本地震後のメール相談行っています

熊本地震で被災された発達障害特性のある方や周囲の方々（ご家族など）を
対象にメール相談窓口を開設しております。地震後の生活で困ったこと、
悩みなどございましたらお気軽にご相談ください。
uneven.npo.soudan@gmail.com

ブログアドレス: <http://decoobokosoudan.blog.fc2.com>
LINE アカウント: @u0041110w
お問い合わせ: uneven.npo.soudan@gmail.com
メールが難しい方: 080-8370-9791（うみの）

☆少人数用（女性専用）のお部屋「くろくま」もご用意しています。
☆中央区内にあります☆

イベントも行います☆
ブログをチェックしてみてね！

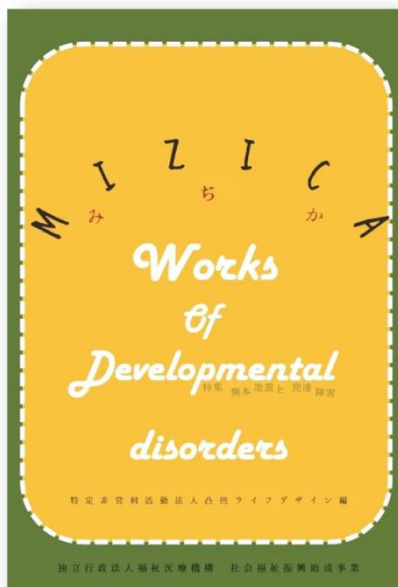
独立行政法人福祉医療機構
山井助成 社会福祉振興助成事業

特定非営利活動法人ひびろひデザイン

冊子

『MIZICA 一特集 熊本地震と 発達障害』 (表紙)

- ・ A5 判 52 ページ
- ・ ISBN978-4-909041-00-5



冊子

『つぶやく ー発達障害当事者の 言葉』 (表紙)

- ・ A5 判 14 ページ
- ・ ISBN978-4-909041-02-9

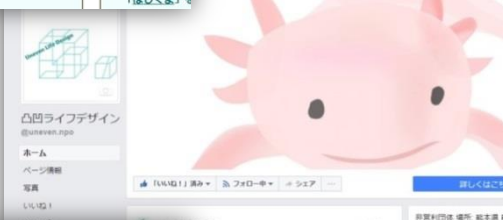


インターネットでのご報告



ホームページ

フェイスブックページ



ツイッター

ブログ



『熊本地震被災発達障害者への支援』事業にご助成いただき
また事業の遂行にあたりご相談をさせていただきました
独立行政法人福祉医療機構
の方々のお力添えで本事業を完了することができました。

本事業の中でご尽力いただきました連携団体
熊本県発達障害当事者会 Little bit
宮崎青年・成人発達障害当事者会 ShiKiBu
の皆様には深く感謝申し上げます。

今後も事業を継続して参りますので、
共助センターにぜひお立ち寄りください。

発達障害当事者力！

特定非営利活動法人凸凹ライフデザイン
uneven.npo@gmail.com